

# ホタルの保護活動について

やまもと あきのり  
津木中学校3年 山本 晃功



**僕**

たちの学校では、何年も前からホタルの保護活動を行っています。具体的にどのような活動をするかというと、まずホタルを捕まえて、飼育し、卵を産ませます。

そして幼虫になるまで育て、その幼虫を川へ放流するのです。この活動によって、ホタルの数は昔と比べると増えてきています。

言葉にすると、とても簡単そうですが、毎年のホタルの保護活動は、やるのがたくさんあって、実は大変なのです。

ホタルが飛び始める前、僕たちはホタルの保護看板の設置をします。その看板には、先輩達が考えた標語が書かれています。

その数は津木地区38ヶ所もありませんが、これはホタルを捕ってはいけないことを伝える看板です。もし、ホタルを捕まえられて、別の場所へ連れて行かれると、最初に住んでいた場所と環境が変わってしまうので、ホタルが死んでしまうかもしれません。

だから、ホタルは捕まえても、元の場所に戻してあげて欲しいと思います。5月中旬になると、飛翔数調査を行います。この調査で昨年と今年のホタルの飛んでいる数の違いを調べます。

昨年の数よりもホタルが増えていて、

だから、川の水が汚れてカワニナがいなくなったりすると、ホタルがたくさん飛ばなくなってしまうます。川の状態が良いか悪いかは、ホタルの生育に大きな影響を与えます。8月の下旬になると、水生生物調査を行います。津木地区の川、3ヶ所に行き、それぞれの場所でもカワニナの数や、そこに住む水生生物の種類や水質を調べます。

川の水は上流の方がきれいでカワニナも多いです。だから、川の上流ではホタルがたくさん飛びます。ホタルはきれいな水を好むので、川を汚さないようにしたいと思います。そのためには、ごみを捨てないことが大切です。

例えば、缶ジュースのごみだと、中に入っている液体がこぼれて川が汚れ、きれいな水でなくなってしまう。すると、ホタルが住みにくい環境になってしまいますので、数が減ってしまいます。こうならないようにするために、ポイ捨てをしないことを心がけることや、ごみ拾いをするのが大切です。

僕たちの住む地域では、年に何回かごみ拾いが行われます。毎回、いろいろなごみが出てきます。空き缶やビンなど、明らかに人が捨てたものと、うれいしいです。ホタルがたくさん飛ぶようになると、それを見に大阪などからきてくれる人もいます。僕たちが飛翔数調査をしていると、「オスとメスって、そうやって見分けるん？」と尋ねられることがあります。

「オスは光る部分の節が2つで、メスが1つです。」とはっきり答えることができたときは、「ホタルについて学んだことが生かされているなあ。」という実感がわきます。

僕が飛翔数調査をするポイントには、ホタルがたくさん飛ぶ時期になると、何百匹というホタルが飛び交っています。その数を数えるのは大変ですが、数が多い分、きちんと保護されているんだなあとうれしくなります。7月になると、ホタルの幼虫を放流します。

そのため僕たちは、飛翔数調査のときに捕まえたホタルを学校の飼育箱に入れ、交尾させ産卵させます。ホタルは一生のうち、五百から千の卵を産みます。僕たちは、卵からかえった幼虫の数を毎日数えます。多い日で千匹以上もあり、小さくてちりのような幼虫を数えるのは大変です。ホタルは幼虫のときは、川に住むカワニナという巻き貝を食べて育ち、成虫になると水を飲んで生き

るのがほとんどです。僕は「少しでも僕たちの住む地域がきれいになればいいなあ。」と思っています。

ホタルがたくさん飛ぶ津木にするためには、川を汚さないということが一番必要なことです。工事などで川が汚れるのは仕方なくても、ごみを捨てて川を汚すことはいけません。ごみを川などに捨てる行動は意識すれば無くせることです。

では、どうすればいろいろな人に「ごみを捨てない。」という意識をもってもらえるでしょうか。



僕は、僕たちが今している活動を、より多くの人に知ってもらうことがいいのではないかと思います。僕たちのしている活動は地味で地道で大変です。

だからこそ、この活動をたくさんの人に知ってもらうことが、津木の川や自然、そしてホタルの保護につながっていく。僕はそう思います。

「オスは光る部分の節が2つで、メスが1つです。」とはっきり答えることができたときは、「ホタルについて学んだことが生かされているなあ。」という実感がわきます。

僕が飛翔数調査をするポイントには、ホタルがたくさん飛ぶ時期になると、何百匹というホタルが飛び交っています。その数を数えるのは大変ですが、数が多い分、きちんと保護されているんだなあとうれしくなります。7月になると、ホタルの幼虫を放流します。

そのため僕たちは、飛翔数調査のときに捕まえたホタルを学校の飼育箱に入れ、交尾させ産卵させます。ホタルは一生のうち、五百から千の卵を産みます。僕たちは、卵からかえった幼虫の数を毎日数えます。多い日で千匹以上もあり、小さくてちりのような幼虫を数えるのは大変です。ホタルは幼虫のときは、川に住むカワニナという巻き貝を食べて育ち、成虫になると水を飲んで生き

のがほとんどです。僕は「少しでも僕たちの住む地域がきれいになればいいなあ。」と思っています。

## 人権の詩 紹介1

気持ち

耐久中学校1年 丸山 美咲

さびしいな 1人だと  
心に穴がポツカリと  
あいた感じ

楽しいな 太陽が  
私の頭上でパアーツと  
かがやいている感じ

悲しいな 真つ暗な  
海の底にズーンと  
しずんでる感じ

うれしいな 心の中が  
スウーツとあざやかな  
色にそまる感じ

私たちはみんな色々な感情をもっている  
私ほもつともつと自分の気持ちを大切にしたい 私ほもつともつとみんなの気持ちを大切にしたい



## 感謝

津木中学校1年 上野 真里加

ありがとう  
今まで支えてくれた みんなに  
心から感謝しているよ  
本当にありがとう

私が一人で立派になったように  
生活している  
それはちがう  
誰かに支えてもらい助けて  
もらって 生きている  
私は幸せを  
たくさんの人からもらっている  
そして、今ももらい続けている  
だから私は今  
たくさんの人に感謝している

